

株主の皆様へ

第90期 上半期報告書

2014年4月1日  2014年9月30日

ご挨拶

株主の皆様には、日頃から格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。第90期上半期(2014年4月1日から2014年9月30日まで)が終了しましたので、ご報告申し上げます。

三井金属グループをめぐる上半期の経済環境は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減、円安による輸入コストの上昇やウクライナや中東情勢等のリスクの高まり、海外経済の景気減速懸念等があるものの、円安・株高の継続や企業の業績改善、政府による経済対策の下支え等を背景として、緩やかな回復基調の中で推移しました。

このような環境の下、三井金属グループの上半期の業績は、円安効果等に加えて北米市場を中心とした自動車用機能部品、排ガス浄化触媒、極薄銅箔の販売が好調であったこと等により、前年同期比で増収増益となりました。

本年8月に、厳しい経営環境ならびに3カ年の中期経営計画(13中計)で打ち出した諸施策の進捗状況等を勘案し、最終年度である2015年度の経営目標を下方修正いたしましたが、今後も注力していく事業を中心にメリハリある「攻め」と「守り」の施策を実行し、収益の上積みを目指してまいります。

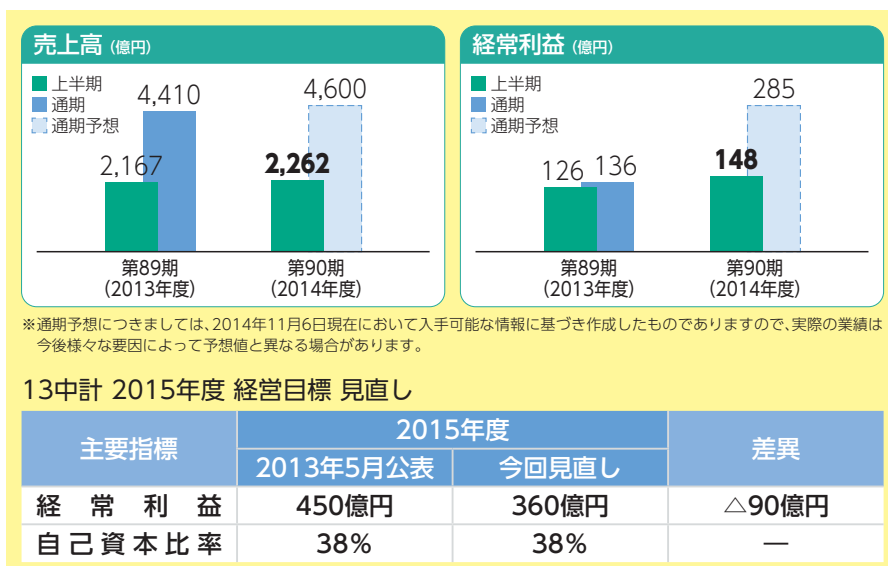
株主の皆様には、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、中間配当につきましては、財務体質の改善を優先し、見送りとさせていただきます。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長

仙田 眞雄



CONTENTS

- ご挨拶
- 第90期上半期レビュー データ編
- 第90期上半期レビュー ニュース編
- インタビュー
機能材料事業本部長 森田 正久
- CLOSE UP
持続的成長を目指し、
未来を拓く研究・開発
～機能材料事業本部～

決算のポイント

POINT
1

北米・中国を中心に自動車用機能部品の販売が好調であり、また、排ガス浄化触媒、極薄銅箔等の販売が増加。円安効果やLME（ロンドン金属取引所）価格の上昇も加わり、売上高は前年同期比94億円（4.4%）の増収。

売上高
2,262 億円
(前年同期比 4.4% 増)

POINT
2

損益面では、排ガス浄化触媒や極薄銅箔、自動車用機能部品の販売の増加、円安効果および在庫要因等により、営業利益は前年同期比26億円（21.9%）、経常利益は、前年同期比22億円（17.9%）の増益。さらに固定資産売却損等の特別損益、税金費用等を計上した結果、四半期純利益は前年同期比20億円（23.7%）の増益。

営業利益
145 億円
(前年同期比 21.9% 増)

経常利益
148 億円
(前年同期比 17.9% 増)

POINT
3

通期では、当上半期決算と足もとの状況を勘案し、売上高は4,600億円、営業利益は278億円、経常利益は285億円、当期純利益は169億円の見込み。

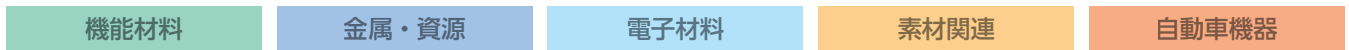
四半期純利益
108 億円
(前年同期比 23.7% 増)

※通期見込みにつきましては、2014年11月6日現在において入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

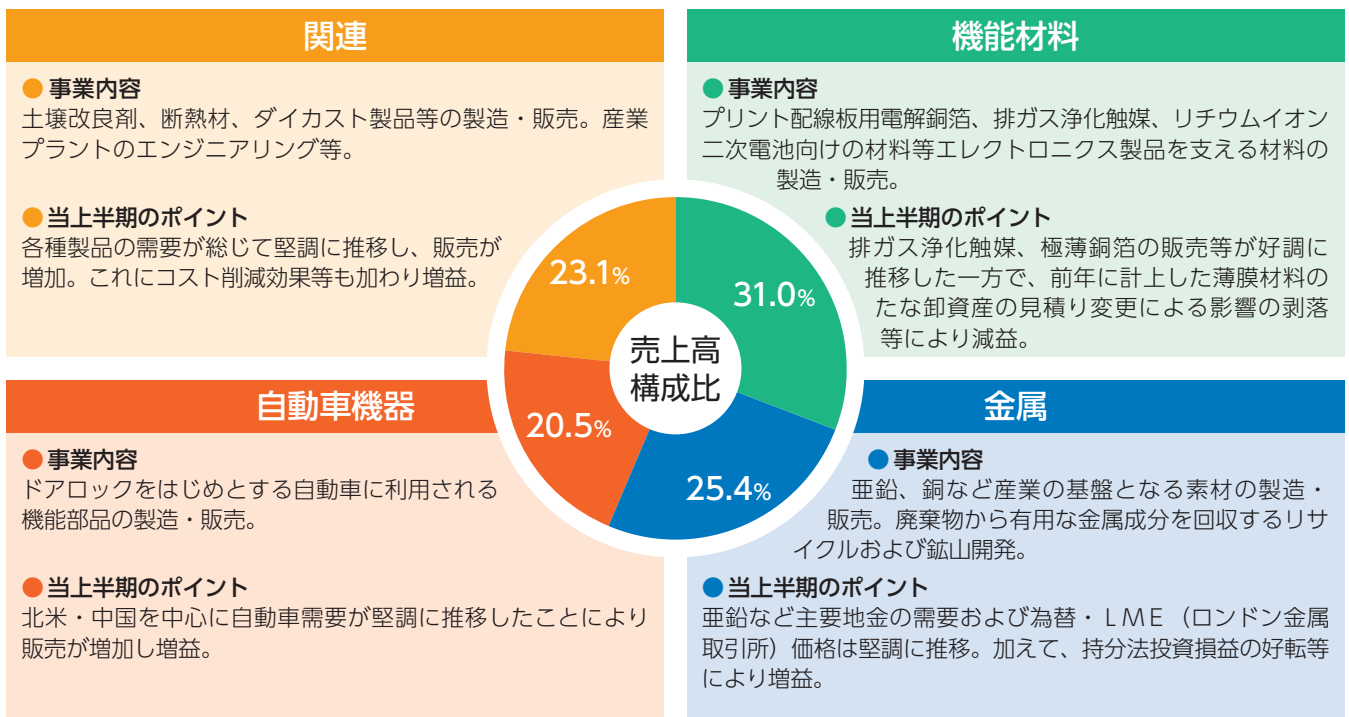
セグメント別業績の概況

2014年4月1日付の全社的な組織改編に伴い、当第1四半期より報告セグメントの区分方法を変更しております。

▼旧セグメント区分



▼新セグメント区分



※売上高構成比の基となる各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高または振替高を含んでいます。

6月 第89期定時株主総会を開催
剰余金処分を可決、取締役1名選任

6月27日午前10時より、ゲートシティホール（ゲートシティ大崎ウエストタワー地下1階）にて第89期定時株主総会を開催しました。決議事項として、剰余金処分が承認可決されたほか、経営体制の強化のため新たに大島敬が取締役に選任されました。



おおしま たかし
大島 敬
取締役 兼 常務執行役員
関連事業統括部長

7月 カセロネス銅鉱山の開山式を開催
銅精鉱の出荷第1船が日本に到着

7月30日（現地時間）、チリの首都サンティアゴで、パンパシフィック・カッパー株式会社（以下、PPC）※を中心に開発を進めているカセロネス銅鉱山の開山式が執り行われ、安倍晋三内閣総理大臣、アウロラ・ウィリアムス鉱業大臣をはじめ日本・チリ両国の政府関係者等500名以上の方が列席されました。

約8年の開発期間を経て、生産された銅精鉱の出荷第1船は、開山式前日に出港し、9月20日にPPC佐賀製錬所（大分県）に到着しました。カセロネス銅鉱山では、年間フル操業となる2015年度には日本の銅精鉱輸入量の約1割に相当する約15万トン（含有される銅量）の銅精鉱を生産することになり、



開山式テープカットの様子
右から1人目が安倍首相、6人目が仙田社長

2040年まで長期的に銅資源の安定供給を行っていく予定です。

※JX日鉱日石金属株式会社との合併による銅事業会社（当社出資比率34%）

7月 アジア市場の需要急増に対応し
薄型基板内蔵キャパシタ材料生産増強

マレーシアにある当社100%子会社「MITSUBI COPPER FOIL (MALAYSIA) SDN.BHD.」にスマートフォン等に使用される薄型基板内蔵キャパシタ材料「フレックス (FaradFlex®)」一貫生産ラインを増強し、7月から本格稼働しました。この増強により納品までの期間を大幅に短縮することが可能となり、通信ノイズの低減に必要な材料として急増するアジア市場での拡販を目指します。

今後のIRスケジュール

2015

- 2月 上旬 2015年3月期 第3四半期決算発表
- 3月 31日 決算日・基準日
- 5月 上旬 2015年3月期 決算発表
- 6月 上旬 第90期定時株主総会 招集ご通知発送
- 6月 下旬 第90期定時株主総会開催

変化を続ける市場ニーズに合致する タイムリーな新材料の開発が成長の鍵



取締役兼常務執行役員
機能材料事業本部長

森田 正久

Q1 組織改編後の機能材料事業本部の 事業体制についてお聞かせください。

機能材料事業本部は、従来の電池材料、触媒、機能粉に、銅箔、薄膜材料およびセラミックスを加え、素材事業を全て集約した大きな事業本部となりました。「粉体」「回路材」「素形材」といった当社が強みを有する領域において、各要素技術のシナジー効果を発揮させようということが大きな狙いです。また、状況に応じて経営資源の集中投入を行える機動的な体制になったと考えています。

さらに、総合研究所の研究開発機能を機能材料事業本部に移し、機能材料研究所として事業と研究開発の一体化を図りました。タイムリーに市場ニーズに応えることが何よりも重要ですから、研究部門と事業本部の距離感を縮めることで、新たな成長の芽を創出するスピードをより一層上げていきたいと考えています。

研究開発については裏面「CLOSE UP」もご覧ください。

Q2 足もとの事業状況について お聞かせください。

機能材料事業の事業環境は常に変化が激しく、グローバル展開や製品ライフサイクルの短期化等難しい状況になってきています。

このような事業環境下で、当セグメントの上半期の業績は、売上高は777億円、経常利益は77億円となりました。その中で前年同期比で収益が改善している排ガス浄化触媒と極薄銅箔の事業状況をご説明します。

排ガス浄化触媒事業は、アジアを中心に二輪車の生産量が伸びていることに加え、排ガスの増加による大気汚染等への対応として各国の環境規制導入が進み、排ガス浄化触媒を搭載した二輪車の需要が拡大していることから、非常に勢いをもって伸長しています。当社は、排ガス浄化触媒に用いられる高価な貴金属の使用量を低減させ、製品のコストダウンを実現した「省貴金属化」を強みとして、世界の二輪車向け排ガス浄化触媒の6割というシェアを獲得しています。これまでも中国、タイ、インド、インドネシア、ベトナムと海外に積極的に拠点を展開しており、

Q3 3カ年の中期経営計画（13中計）の 2年目となりましたが、経営目標 達成に向け、今後の方向性をお聞かせ ください。

注力していく事業領域については、引き続き、「環境」「エネルギー」「リサイクル」の3領域となります。特に、「環境」であれば二輪車向けに加え、四輪車向け排ガス浄化触媒への本格的な参入を図るほか、「エネルギー」では電池材料において、電気自動車向けリチウムイオン二次電池の新しい正負極材料等の開発を進めるとともに、引き続き燃料電池などの領域も視野に入れておかなければならないと考えています。「リサイクル」は金属事業が主流ですが、当事業においても希少金属のリサイクル等を進めなければなりません。海外展開においては、現在、好調を維持している銅箔事業、薄膜材料事業の中国・アジアを中心とした最適な生産・供給体制の確立が必要であると考えています。

先ほどもご説明しましたとおり、常に変化
する事業環境の中にある機能材料事業は、

2015年4月にはインドの第2製造拠点の稼働を予定しています。また、二輪車向けで培った技術を活かし、四輪車向け排ガス浄化触媒市場への参入も進めています。この領域においては後発ではありますが、2015年7月から北米生産拠点で量産を開始します。

次に銅箔事業については、主力製品であるスマートフォン向けキャリア付極薄銅箔（Micro Thin™/マイクロロシン）は好調に推移しています。本年9月半ばに発売された米国アップルの「iPhone（アイフォン）6」や、台頭する中国系メーカーも含め、世界のスマートフォンに使用される極薄銅箔の約9割に当社のマイクロロシンが採用されています。拡大する需要に対応するため、上尾事業所（埼玉県上尾市）では、本年3月に生産能力増強工事が完了しましたが、さらなる増強も視野に入れています。スマートフォンを含め通信領域では、高機能化に対する新しい要求は今後も続き、これを実現するための材料開発が必要とされます。いかに正しくニーズを捉え、開発に向かえるかが勝負どころとなってきます。



持続的成長を目指し、 未来を拓く研究・開発 〜機能材料事業本部〜

事業に密接なテーマへの集中を強化・加速 スピード感を持った研究開発を具現化

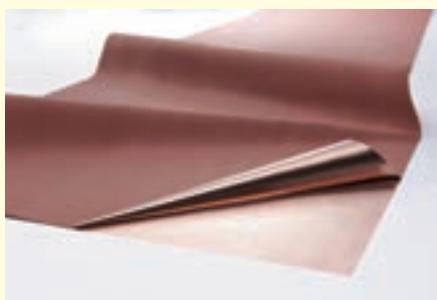
事業の持続的成長のためには、研究開発がかかせません。三井金属の明日を先導する役割を担っている研究開発体制として、基礎評価研究所とは別に、機能材料研究所および開発センターがあります。

機能材料研究所と開発センターは、機能材料事業本部内の組織であるという特性を活かし、電池材料や銅箔といった各事業における既存技術やビジネスモデルとの親和性を考慮したテーマ選定を行っています。研究開発から事業化に至るまでは年月を要しますが、タイムリーに市場のニーズに因應するため、新規事業の創出を目指した研究開発を行い、将来のビジネスの芽を日々探しています。

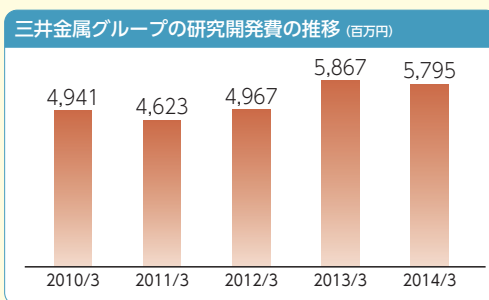
進化し続ける製品 お客様のニーズに対応した技術開発

お客様のニーズは多様化していることから、当社の製品も常に進化し続けています。当社のキャリア付極薄銅箔、マイクロシン (Micro Thin™) は、世界のスマートフォンに使用される極薄銅箔の約9割に採用されていますが、これも例外ではありません。たとえば、微細回路形成を可能にする表面形状処理やICパッケージ向けの次世代製品であるプライマーレジン(樹脂接着層)付極薄銅箔の開発等を行っており、一部は既に販売を開始しています。今後さらなる高機能化していくスマートフォンをはじめとする通信領域に貢献していきます。

機能材料事業本部は、これからも時代のニーズを捉えて研究・開発を行い、魅力ある製品を提供し続けることで、持続的成長を図ってまいります。



Micro Thin™



株主メモ

定時株主総会の議決権の基準日 3月31日
 期末配当の基準日 3月31日
 中間配当の基準日 9月30日
 定時株主総会 6月下旬

株主名簿管理人・特別口座管理機関
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 ☎0120-782-031

公告の方法

電子公告とする。
<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>
 ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

〈株式事務のお取扱い〉

- 未払配当金の支払いのお申出先
左記三井住友信託銀行にお申し出ください。
- 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先
①証券会社の口座へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。
②証券会社の口座へ株式をお預けになられていない(特別口座に記録されている)株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報など当社をご理解いただくための様々な情報を提供しております。

三井金属

検索

<http://www.mitsui-kinzoku.co.jp/>

三井金属鉱業株式会社

〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号
 TEL:03-5437-8240

総務部



環境に配慮した FSC® 認証紙と植物油インキを使用しています。